

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市荒井児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人アスイク
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 35,666人(前年度比 122.0%) 令和5年度 29,223人 令和4年度 25,145人 《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 52,398千円(49,676千円) ・ その他市が負担した費用 0千円(0千円) 《収入》 ・ 使用料収入 0千円(0千円) ・ その他収入 0千円(0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館地域懇話会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図っている。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。 なお、児童館管理業務仕様書において月に1回以上実施しなければならないと定めている避難訓練等を実施していない月があった。	30/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供など、子育て家庭の支援を行っている。 なお、こどもの権利イベントを開催して、児童自身がその権利を知り、学ぶ機会を設けた。その資料を児童館内に掲示し、自由来館利用者や小学生の保護者、乳幼児親子への啓蒙にも努めており、こどもの人権に十分に配慮するとともに、子ども一人ひとりの人格を尊重した支援が行われている。 また、地域懇話会において、関係機関や地域の方が実際の児童館や児童クラブの様子を見たり、子どもと遊びを通して交流する機会を設けると共に、地域向けの児童館便りを作成し児童館行事や子ども達の様子を分かりやすく発信したり、「地域開放デー」を設けて、地域の方が子ども達と一緒に遊ぶ機会を持つなど、積極的に児童館事業の周知に努めている。	20/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人アスイク）による自己評価》
令和6年度においては、開館から4年間の運営実績をもとに、着実な運営を行ってまいりました。また、子どもを主体とした活動や乳幼児クラブの発足など新たなことにも取り組んだ一年となりました。 児童健全育成事業においては、中高生を対象としたイベントを月1回程度実施するとともに、利用がしやすい居場所となるようアンケートの実施や職場体験に訪れた中学生とのアイデア出しなど利用者の声を収集することに努めました。また、小学生の自由来館者数も増加傾向にあり、年代を問わず居場所の一つとして積極的に児童館を利用する姿が多く見受けられました。 子育て家庭支援事業においては、乳幼児クラブを新たに発足し、年間を通して活動を行うことで子どもの成長とともに喜ぶ仲間づくりに貢献しました。子育て支援クラブ主催のイベントや週1回程度実施する自由参加型ミニイベントが定着し、乳幼児親子の定期的な利用にもつながりました。 地域交流推進事業においては、地域懇話会にて実際の児童館・児童クラブの様子をご覧いただき、地域の皆様と子どもたちが遊びを通して交流する機会を設けることができました。また、地域人材を活かした親子ロボット教室やパン教室、アフリカ音楽ライブなど多様な出会いと体験を届けることができました。 放課後児童健全育成事業においては、毎日140名ほどの利用がありました。昨年度から継続しているこども企画や意見箱の設置などの仕組みを整え、特に今年度は子どもたち主体のカラオケ大会など自由なアイデアをもとに児童クラブでの過ごしを楽しみました。その他、地域の未来を題材とした「あらい劇団」の公演を児童館内外で実施し、達成感を味わう活動を実施することができました。 この他、フードバンクや食料支援を積極的に取り入れており、支援を必要とする児童クラブ登録家庭に食品をお届けしながら見守りをしています。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、中高生タイムを毎日設けている他、「中高生イベント」を毎月実施しクッキングやゲーム大会等開催している。中高生タイムの環境整備やイベントの企画に当たっては職場体験に来た中学生にも意見を求める等情報収集を積極的に行っており、居場所の一つとなるよう努めている。小学生イベントの土曜日開催や、こどもの自主企画「こども夏まつり」を実施により、自由来館児童が増加している。「こども夏まつり」はこども達自身が企画運営を行えるよう支援することで、自己有用感や自主性、社会性を育んだ。 子育て家庭支援事業においては、令和6年度から乳幼児クラブを発足させ、0歳児から1歳児の発達段階に応じた乳幼児親子への遊びや保護者同士の交流の機会を提供している。令和5年度から実施していた自由参加のミニイベントに名前を付け、定期的な開催に変更した。誕生会や親子体操、読み聞かせ等来館していた親子がいつでも参加できる形式は保護者からも好評で、誘い合って来館するなどリピーターの増加に繋がっている。 地域交流推進事業においては、地域懇話会を春休み中に実施し、出席者が実際の児童館や児童クラブの様子を見たり、こどもと遊びを通して交流する機会を設けた。また、地域の方向けの児童館便りを作成して、児童館行事やこども達の様子を分かりやすく発信したり、「地域開放デー」を設けて、こども達と一緒に遊ぶ機会を持つ等、地域に向けて児童館事業への理解を深める様々な取り組みを行っている。 放課後児童健全育成事業においては、継続して活動している「あらい劇団」や、市民センターまつりの参加依頼を受けて、こども達の意見から新たに立ち上げた「ダンスクラブ」等、多彩な活動を通して豊かな感性や社会性を育んでいる。こども達が思いを発信できるツールの一つの「こども企画書」を活用して、こども主体の行事を年間通して実施し、児童クラブでの生活や遊びの充実を図りながらこども達の自主性や主体性を育んだ。高学年に向けた「こども権利イベント」を実施して子どもの権利をテーマにワークショップを行い、こども自身に権利を知る機会を提供しながら、こどもの人権に配慮し適切な支援に努めている。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課